

2026年4月2日

株式会社みずほ銀行

芙蓉総合リース株式会社

FUYO LEASE GROUP

MIZUHO

みずほ銀行と芙蓉総合リースとの間での 「Mizuho Eco Finance」の契約締結について

株式会社みずほ銀行（頭取：加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」）と芙蓉総合リース株式会社（代表取締役社長：織田 寛明、以下「芙蓉リース」）は、本日、シンジケーション方式による「Mizuho Eco Finance」（※1、以下「本商品」）の融資契約を締結しました。

本商品は、国内外で信頼性の高い環境認定や指標等を組み入れた環境評価モデルを用いて、みずほ銀行がお客さまの取り組みを評価し、一定のスコアを満たしたお客さまに対して融資を行うサステナブルファイナンス商品です。

みずほ銀行は、継続的なモニタリングとエンゲージメント（建設的な対話）を通じて、お客さまの脱炭素社会への移行に向けた取り組みの促進を支援します。

なお、評価手法を含む本商品のフレームワークについては、株式会社日本格付研究所（JCR）から環境省の「インパクトファイナンスの基本的考え方」に整合する旨の意見書を取得しています（※2）。

芙蓉リースグループがGXリーグに賛同していること、「2030年に、Scope1+2でカーボンニュートラルを達成する（※3）」というSBTに準ずる温室効果ガス排出削減目標を策定していること、サプライチェーン全体で年度毎のCO2排出量を開示していること等、評価モデルに使用している指標において高い水準で満たしていることをみずほ銀行が評価し、契約締結に至りました。

芙蓉リースグループは、2022年度よりスタートした中期経営計画「Fuyo Shared Value 2026」において、CSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）の実践を通じた社会課題の解決と経済価値の同時実現により、企業グループとしての持続的な成長を目指しています。また、資金調達面ではサステナブルファイナンスを積極的に活用することにより、資金調達手段の多様化を進めるとともに、持続可能な社会の実現に貢献します。

〈みずほ〉は、ありたき将来の日本の産業構造“グランドデザイン”を描き、その実現に向けてお客さまの脱炭素化・トランジションを積極的に支援しています。〈みずほ〉の強みである「産業・業界知見」や「つなぐ力」を活かしたグループ一体でのソリューションの提供を通じて、お客さまとともに挑戦します。

〈案件の概要〉

融 資 先：芙蓉総合リース株式会社

組 成 総 額：562億円

アレンジャー行：みずほ銀行

契 約 締 結 日：2026年3月31日

※1：「Mizuho Eco Finance」の商品概要にかかるウェブサイト

<https://www.mizuhobank.co.jp/corporate/sustainability/mef/index.html>

※2：株式会社日本格付研究所のウェブサイト

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

※3：芙蓉リースグループ 2030年カーボンニュートラル宣言 2021年7月14日付けプレスリリース

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/8424/tdnet/2000920/00.pdf>

以 上